2007.8.24 朝日三重版

紀北町のNPO

「銚子川の渡し」復活

熊野杉で舟建造

江戸時代に紀北町海山区の銚子川にあったとされる渡し舟を復元しようと、同町のまちづくりNPO法人「ふるさと企画舎」＝田上至理事長(45)＝が中心になって、地域住民らが川舟を完成させた。26日に同川で進水式がある。今後は、月1回程度イベントを開き、この渡し舟で川を渡る企画を予定している。

復元の取り組みは、昨年11月から。三重大人文学部・塚本明教授（日本近世史）が熊野古道の馬越峠や尾鷲にまつわる古文書を書物にまとめたのがきっかけだった。伊勢方面から和歌山の那智勝浦の寺に向かう西国三十三カ所巡りの旅人の道中日記や、道中を説明した道中案内記などから、江戸時代中期に、銚子川に渡し舟があったことが分かった。

川舟は、地元の郷土史研究家やお年寄りらから聞き込みをして、物資の運搬や水田に苗を運ぶ農作業用など多目的に利用され、船体が長方形をした平らな舟底が特徴の「べか舟」と特定した。

舟の建造は、熊野速玉大社の「御船まつり」の川舟づくりで知られる紀宝町の船大工、谷上嘉一さん(65)に依頼。全長4・5㍍、幅1・4㍍、高さ40㌢の川舟に仕上がった。

設計図は見つかっていないため、谷上さんが普段造っている川舟を基に、形や大きさを想像しながら完成させた。材質は樹齢約100年、直径約1㍍の熊野杉。船頭を含め6人が乗船できる。

ふるさと企画舎の田上理事長は「熊野古道を歩くだけでなく、川舟にも乗ってもらい地域の良さを知ってほしい。渡し舟で、住民との交流が活発になることを期待したい」と話している。

復元した川舟は馬越（まごせ）と名付けられた。舟で川を渡るイベントにも登場する＝紀北町海山区で